

勿凝学問 56

貴族院を譲歩させた英国と参議院に譲歩した日本
——日本の政治はどのような^{さまよ}彷徨いをみせてくれるのか——

2006年11月30日
慶應義塾大学商学部
教授 権丈善一

今日11月30日は、97年前の1909年、イギリスでロイド・ジョージ蔵相の人民予算——累進所得税導入、相続税・資産課税による富裕層への増税とたばこ税・酒税の増税で貧困対策を企図した予算——が上院（貴族院）で否決された日である。下院を通過した予算案の上院での否決を受けて、アスキス首相は下院を解散する。ということで・・・

他の国のできごとであったとしても、やはり<歴史は繰り返す>のであれば、日本で参議院の改革が行われるのは、そう遠くない日のことなのかもしれない。というのも、「勿凝学問 37 What's 憲政の常道」の中で触れた20世紀初頭のイギリスの歴史を考えれば、ロイド・ジョージの人民予算を上院（貴族院）が否決し、これを受けて、下院（庶民院）が解散したのは1909年11月30日。その後、ロイド・ジョージや、その弟子筋のチャーチルが、上院（貴族院）の権限を大幅に制限する改革に成功し、イギリスを実質的な一院制にしてしまったのが1911年8月10日。下院解散から上院の改革まで、2年にみતાない618日であった（計算しました）。

上の文章は、今年の郵政解散総選挙戦さなかの2005年9月3日に書いた勿凝学問 40の出だしである。

さて日本は——。

2005年8月8日、参議院で郵政民営化関連6法案が否決され、衆議院が解散された。9月11日総選挙後の10月28日、造反組の処分が公表される。

『朝日新聞』2005年10月29日朝刊4面より

郵政民営化法案造反議員の処分一覧表

【衆院】

<総選挙での対応—無所属で立候補、当選>

氏名	選挙区	特別国会での対応	処分
野呂田芳成	秋田2	—	除名
堀内光雄	山梨2	○	離党勧告
保坂武	山梨3	○	〃
野田聖子	岐阜1	○	〃
古屋圭司	岐阜5	○	〃
平沼赳夫	岡山3	×	〃
山口俊一	徳島2	○	〃
武田良太	福岡11	○	〃
今村雅弘	佐賀2	○	〃
保利耕輔	佐賀3	○	〃
江藤拓	宮崎2	○	〃
古川禎久	宮崎3	○	〃
森山裕	鹿児島5	○	〃

そして2006年11月27日、自民党は、造反組12人のうち特別国会で郵政民営化法案に反対した1名を除く11人の復党を認める。

要するに、

	イギリス			日本	
1909年11月30日	下院で可決した法案を上院が否決したのを受けて、下院を解散		2005年8月8日	衆議院で可決した法案を参議院が否決したのを受けて、衆議院を解散	
1911年8月10日	英国国会を実質的な一院制に改革	618日目	2006年11月27日	造反議員の復党を認める	476日目
			2007年4月18日		618日目
			2007年7月8日 or 15日	参議院選挙	699日目 or 706日目

日本は、英国の歴史とは異なる途を選択した。この先、日本の政治は、どのような彷徨をみせてくれるのであろうか。

衆議院議員の復党組が来夏 2007 年参議院選挙で票を集めてくれることを期待して、今回の造反組復党という段取りとなったように見えるのであるが——年内に復党がなされたというタイミングには 1 月 1 日時点での党員数が意味をもつ政党助成金の問題が絡みはする——、「郵政民営化造反組の復党劇」で得る票と失う票との勘定は、彼らの思惑通りにいくのか。ひとえに投票者の健忘症の度合いにかかっているようにも思え、そこに賭けて勝算ありと政治家に思わせるこの国の政治は、いつもながらではあるが、なかなか楽しませてくれはする。